

「南海トラフ 地震臨時情報」が出たら、どうする？

普段の備えと冷静な対応を

令和6年（2024年）8月8日の日向灘（宮崎県の沖合）の地震が発生したことに伴い、令和元年（2019年）5月に南海トラフ地震に関連する情報の運用が開始されて以降初めて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。

このような情報が発表された際に、落ち着いて行動ができるようにどのような対応をとるべきか知っておきましょう。

南海トラフ地震の特徴

- ・過去、実際に繰り返し起きている（100年～150年間隔）。
- ・前回の発生から約80年が経過している。
- ・今後30年で発生する確率は「80%程度」（令和7年（2025年）1月に「70%から80%」から「80%程度」に引き上げ）
- ・西日本の広いエリアで大きな被害が出る。



●地震は一度では終わらないかも
↳時間差で起きる場合も

過去には、想定震源域のほぼ全域で同時に地震が発生したことがある他、東側半分領域で大規模地震が発生し、時間差をもって残り西側半分の領域でも大規模地震が発生したこともあります。

前回の南海トラフ地震は、昭和19年（1944年）に起きた三重県沖を震源とする昭和東南海地震と、昭和21年（1946年）に起きた和歌山県南方沖を震源とする昭和南海地震で、この2つの地震は約2年の時間差をもって発生しました。なお、西側半分の領域で先に大規模地震が発生する可能性もあります。

このような特徴があるため、最初の大規模地震の後も「地震が終わったからもう大丈夫」と油断することなく、次の揺れや津波、余震に備え続けることがとても重要となります。

